都内主要繁華街における滞留人口モニタリング

東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター 西田 淳志

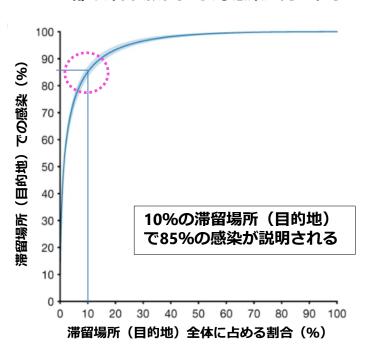
都内主要繁華街 滞留人口モニタリング 〈要点〉

- レジャー目的の夜間滞留人口は、直近1週間は増加せず、ほぼ横ばいで推移(前週比:1.0%減)。
- 一方、2月21日に重点措置解除となったすべての自治体において、急激な夜間滞留人口の増加にともない、新規感染者数の増加(リバウンド)がみられている。
- 今後、年度末に向けて人が集まる機会が増える可能性があるが、引き続き、長時間・大人数での会食などハイリスクな行動を避け、基本的な感染対策を徹底することが重要。

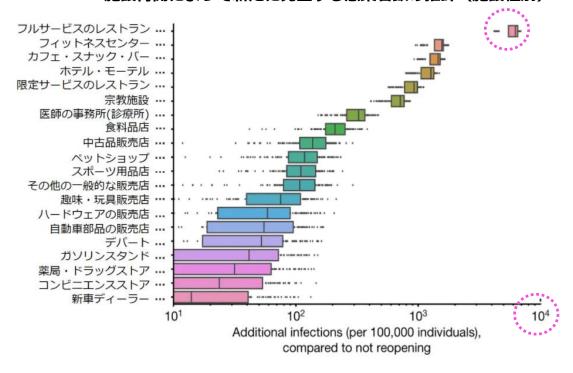
繁華街の夜間滞留人口に着目する理由

スマートフォンGPSデータをもとに、シカゴ都市部における様々な施設の人口密度や滞在時間を算出し、それらの施設が再開された場合の感染者数を推計(2020年3月~4月)

-部の滞留場所で主要な感染が発生する



施設再開によって新たに発生する感染者数の推計(施設種別)

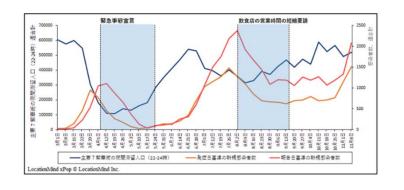


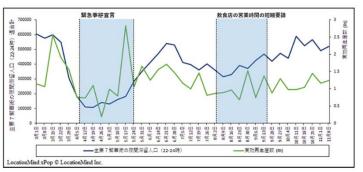
Chang S et al., *Nature*, 2021

ハイリスクな滞留人口と感染状況との関連

- GPSの移動パターンから主要繁華街(ハイリスクな場所)に レジャー目的(ハイリスクな目的)で滞留したデータを抽出※
- 夜間帯(ハイリスクな時間帯)の滞留人口量を1時間単位で推定
- 繁華街夜間滞留人口データとその後の

新規感染者数、実効再生産数との関連が確認されている※※

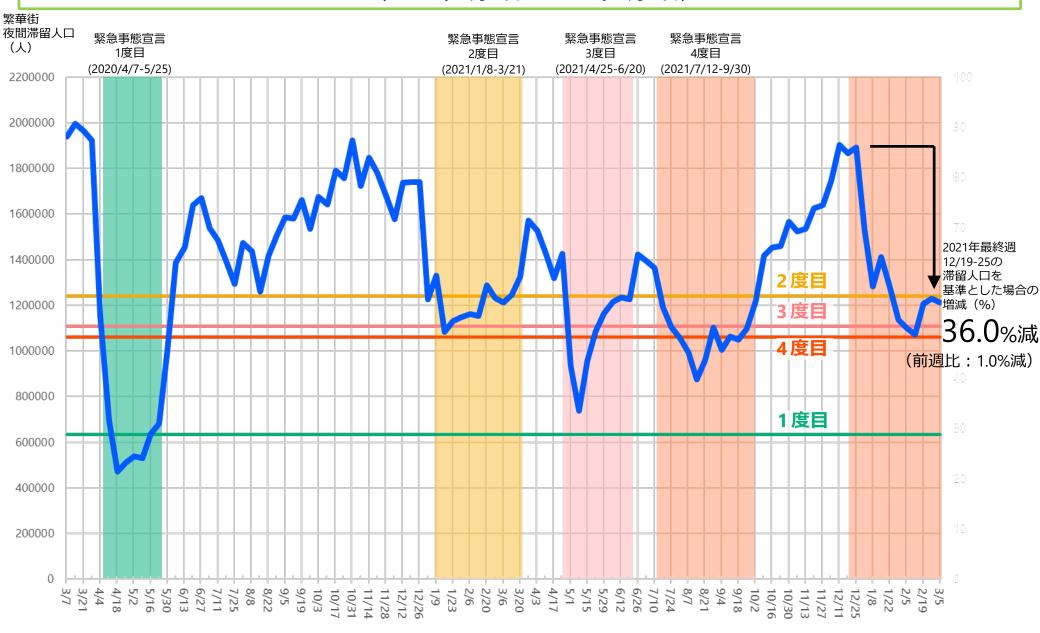


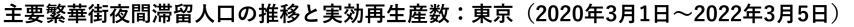


※GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後、職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

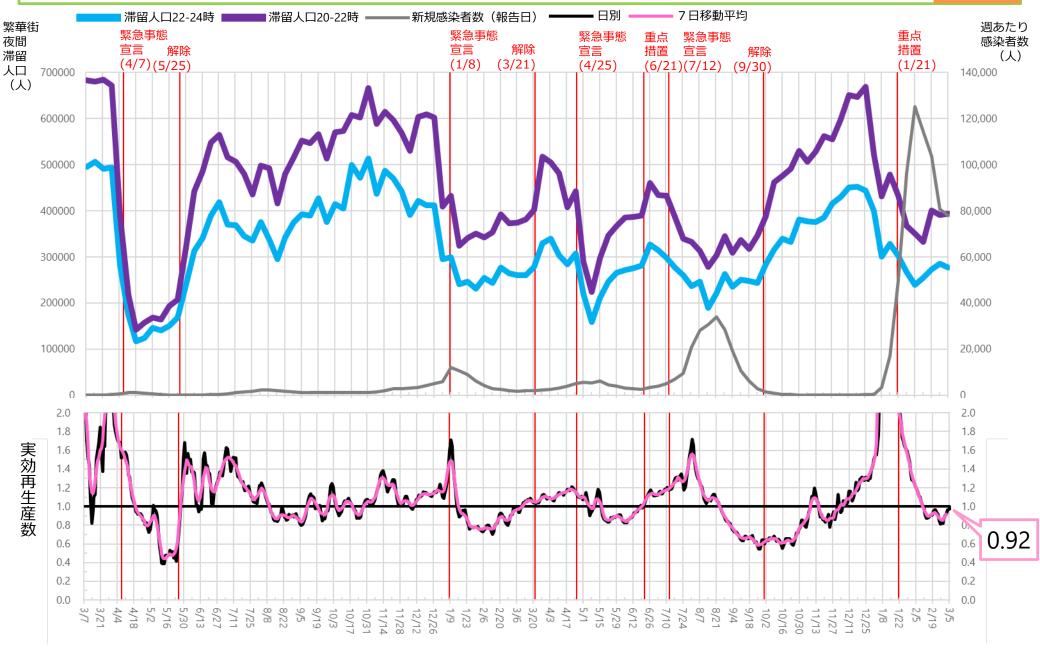
LocationMind xPopのデータは、NTTドコモが提供するアプリケーションサービス「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。位置情報は最短5分ごとに測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。

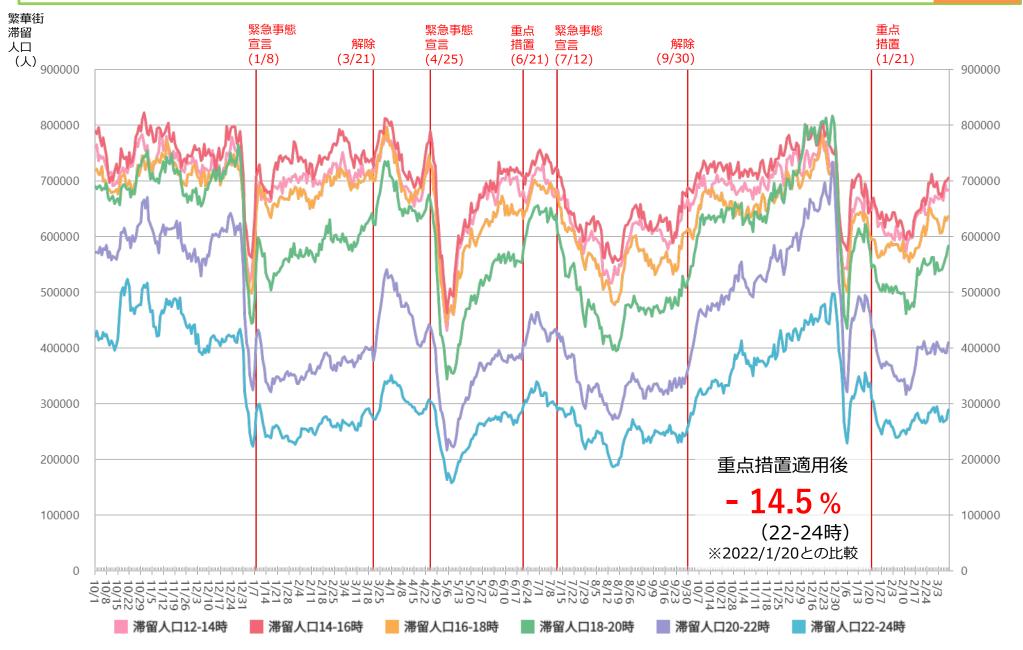
繁華街夜間滞留人口(18-24時)の推移:緊急事態宣言中平均水準との比較 (2020年3月1日~2022年3月5日)





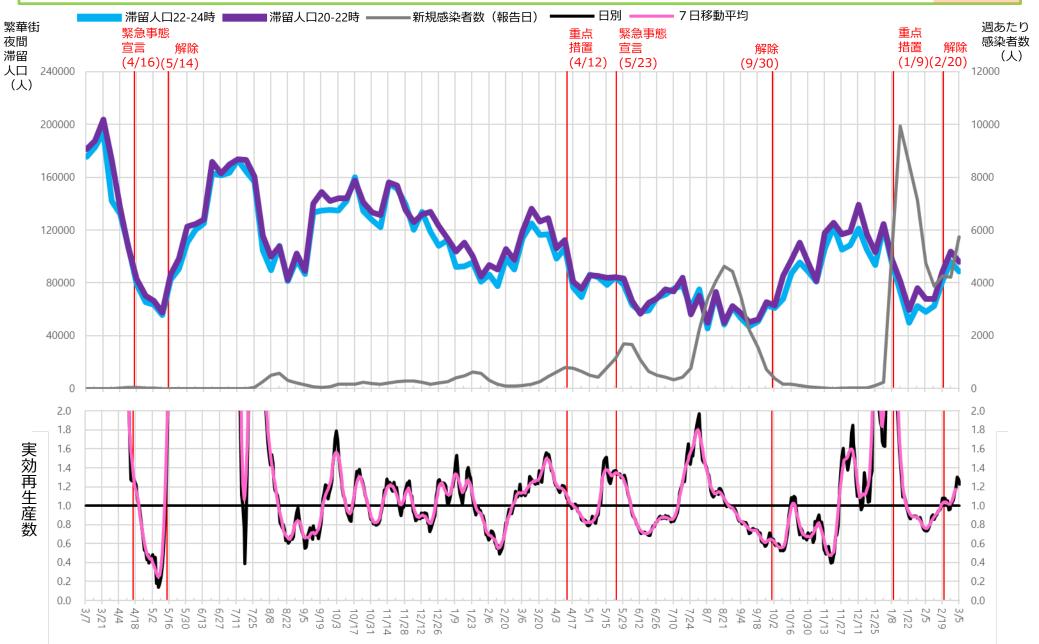
重点措置 1/21-3/21

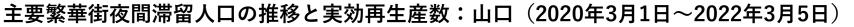




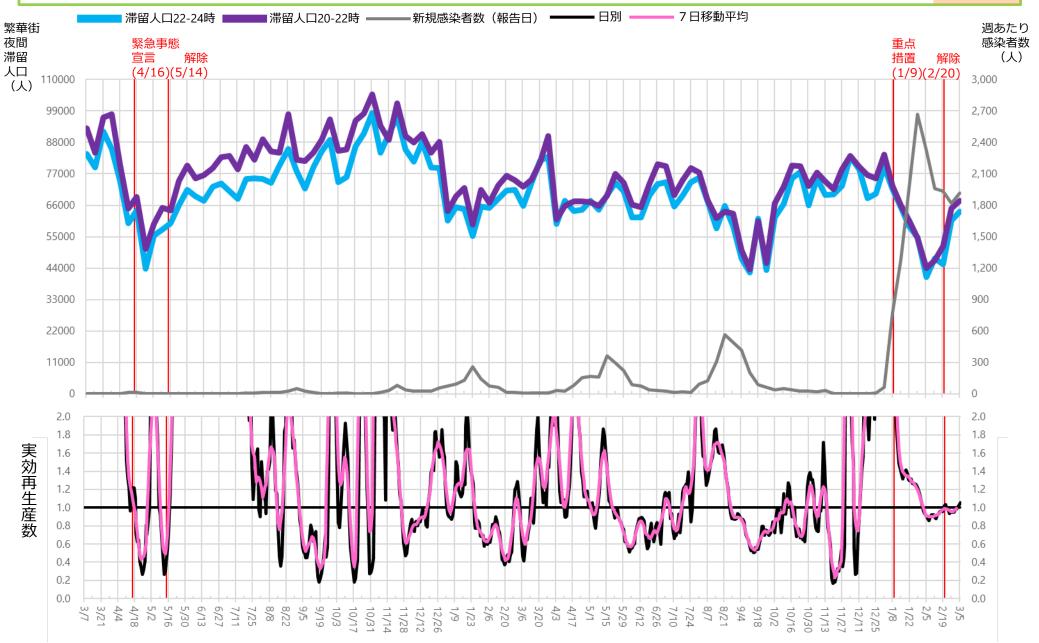
主要繁華街夜間滞留人口の推移と実効再生産数:沖縄(2020年3月1日~2022年3月5日)

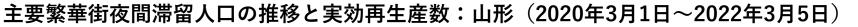
重点措置 1/9-2/20



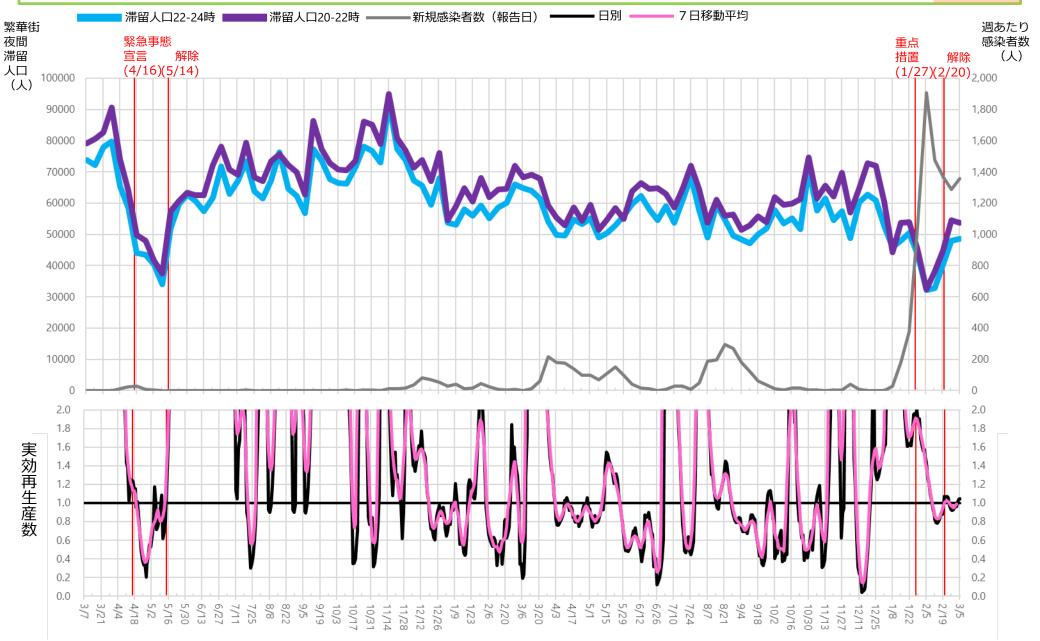


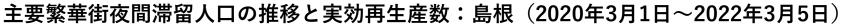
重点措置 1/9-2/20



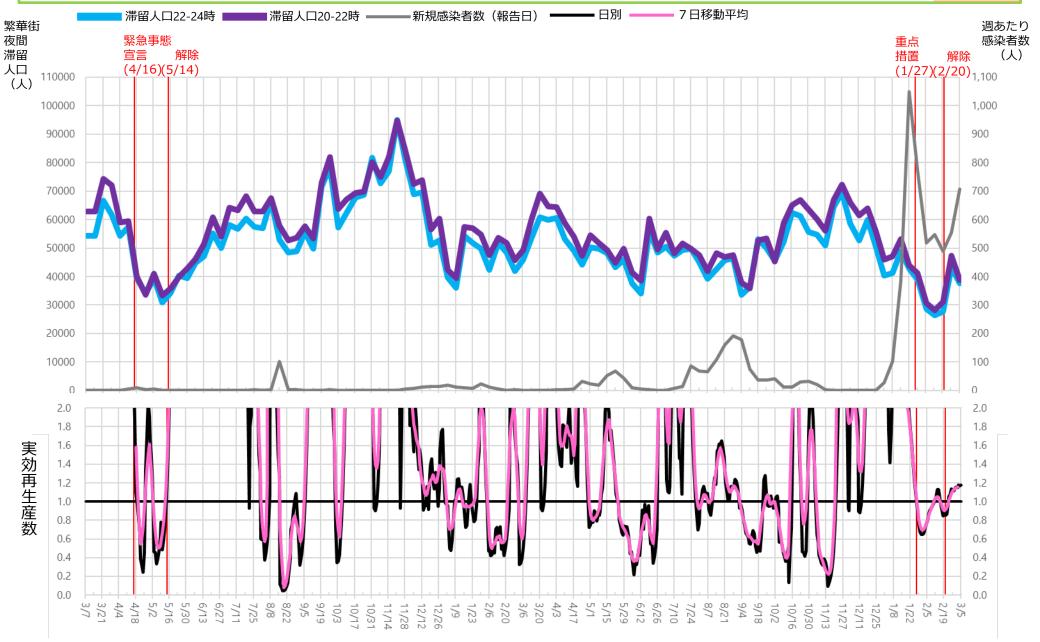


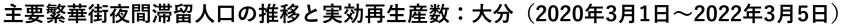
重点措置 1/27-2/20





重点措置 1/27-2/20





重点措置 1/27-2/20

